

315 テクネチウム E-HIDA キットの基礎的検討

科研化学株式会社 放射性医薬品部第一課

熊谷 隆

同、中央研究所第 6 研究室

鎌須賀輝男

肝、胆道系シンチグラム用テクネチウム 99m 標識キット、テクネチウム E-HIDA キットの基礎的検討結果について報告する。

標識率及び遊離のテクネチウム 99m の混在率の測定方法として、各種溶媒を用いた TLC 及び PC とうろ紙電気泳動を比較検討した結果、飽和食塩水を用いるシリカゲル TLC 法が最も良好でかつ簡便であった。

これにより測定した標識率は、標識後 15 分で 98% 以上であり、標識後 6 時間迄 95% 以上と良好であった。

マウスにおける体内分布試験では投与後 30 分迄に投与量の 60~80% が肝、胆のうを経て腸管内に排泄され、腎への分布は 1% 以下であった。

これらの試験結果はテクネチウム 99m E-HIDA が血中より肝への移行が速やかであり、腎への移行は少ない臨床上有用な肝、胆道系シンチグラム剤であることを示唆するものであった。

316 β -TG リアバックの基礎的検討

科研化学株式会社 放射性医薬品部第一課

高津秋彦、加藤純一

血中の血小板特異蛋白であるベータトロンボグロブリン (β -TG) を測定する RIA キット、 β -TG リアバックの基礎的検討結果及び若干の臨床結果について報告する。

ヨウ化 β -TG (^{125}I) の放射化学的純度はバルビタール Buffer (pH 8.6, イオン強度 0.075) を用いるろ紙電気泳動により行なつた。ヨウ化 β -TG のバンドは原点付近にあり遊離のヨード ^{125}I はほとんど認められなかつた。

キットの保存中の安定性に関する試験では、冷蔵庫中 9 週間保存しても B% の低下はわずかで、測定値も差はなく、キットの安定性は良好であった。

インキュベーション温度は 15~30°C、インキュベーション時間は 50~70 分間の間で、測定値に差は認められなかつた。

測定内変動、測定間変動はいずれも 10% 以下であり、手技者、ロット等による差は認められなかつた。

これらの試験結果より、 β -TG リアバックは臨床診断用キットとして安定した性能を有していることを確認した。またこれ迄の臨床上の知見より in Vivo, in Vitro における血小板機能を測定する為に有用なキットであることが示唆されている。